

## 2園の私立幼稚園

### 認定こども園開設へ

町では、上町保育園の建て替えを機に子育て支援センターを併設する計画が進められておりましたが、私立幼稚園が認定こども園開設を町に申し入れた事により、建て替えを見合わせる事になりました。



建て替えを待つ・・・上町保育園

#### 経過

平成21年12月28日

ながせ幼稚園理事長より口頭で開設したいとの申し入れ

平成22年1月12日

町側より、ときわぎ幼稚園理事長に認定こども園開設への意思を確認

平成22年1月13日

ときわぎ幼稚園理事長より口頭で開設したいとの申し入れ

平成22年2月1日

両幼稚園理事長名で文書により開設したいとの申し入れ

ながせ幼稚園

開設予定 平成23年4月

定員40名

ときわぎ幼稚園

開設予定 平成22年9月

定員30名

(その後平成23年4月に開設予定を変更)

町政策会議

上町保育園等の建て替えについては、認定こども園運営状況等の様子を見る。

子育て支援センターについても場所等を含めて検討する。

認定こども園とは

幼稚園と保育所の両方の機能を併せ持つため、親が働いている、いないにかかわらず利用できる施設です。

例えば幼稚園児の親が仕事を始め、長時間の保育が必要になった場合でも引き続き同じ認定こども園にお子さんを通わせることができるなど、一貫した教育・保育を受けることができます。

埼玉県内でも認定こども園を運営している園は平成21年度8園、平成22年度14園と少なく、まだまだ問題は山積しているようです。

両理事長からお話しを伺っておりませんが、「毛呂山町の認定こども園開設を他の幼稚園が注視している。どこの園も認定こども園に踏み切れないでいるので私達がいいモデルなのだろう」とのことです。

町でも今年度、(仮称)子育て支援等検討委員会を作り、今後の子育て・保育の環境整備について検討を進めます。



小さな子育て支援センター(東公民館)

## 井上けんじの一般質問

### 増える児童虐待

子どもを守ることは国民の義務

昨今、信じられないような児童虐待のニュースが後を絶ちません。児童虐待は、子どもの心と身に深い傷を残し、健やかな成長や人格の形成に重大な影響を与えるばかりか、次の世代に引き継がれ将来更に深刻な社会問題へと拡大する恐れを含んでいます。

このような児童虐待の根を絶ち、次代を担う子ども達が安心して健やかに成長できる社会を構築するためにも、関係機関等と連携した積極的な取り組みが大切です。

今回私の一般質問で、本町における児童虐待の有無の問に対し、担当課長より「学校または、関係諸機関より虐待または虐待のおそれがある」との答弁を伺いました。

虐待は多くの場合、一つの原因ではなく、さまざまな要因が重なったときに家族関係が不安定になり、子どもへの虐待が引き起こされるようです。

最近では、ネグレクトと呼ばれる養育放棄状態によって栄養失調や成長障害も増えてきております。このような事態を防ぐためにも私たちは、早期発見の努力義務と関係機関への通告義務(児童福祉法第25条)があることを知っておきましょう。

井上けんじはブログ形式で逐次ホームページを更新しております。

井上健次で検索

私の視点へ

2007年より書き込んでおります。

## 町民農園事業に予算化は必要なし!

「どこの市や町でもやっているのだから、毛呂山町でも貸し農園事業を早くやれ」と言っているのは、もう古い考え方です。



箕和田地区にOPENした貸し農園

近年の菜園ブームで、近隣の市・町の貸し農園はトイレや水道を整備し、農具や簡単な耕運機まで貸し出すケースもあります。

毎年毎年その管理に貴重な税を投入することは、いわば「ひも付き事業」を延々と続けるようなもの。税を使う上で、公正・公平の観点から考えると、道路などの整備は大変多くの方々が利用するために公共性の最たるものと言えませんが、菜園人口は全国で約50万人程度、釣り人口が全国で1000万人とも1500万人とも言いいますから公共性の面ではあまり良くないでしょう。

また「遊休農地解消」という建てまを掲げても、そもそも遊休農地にした地権者の責任というものがあり、それに税を使う行政代執行は問題ありです。

貸し農園は、借りる側では自発的な趣味の領域ですし、農地を貸し出す側には借地料が発生する経済効果があります。

私は、以前から「貸し農園は町行政が手がけるべき事業ではなく、地権者やNPOなどの任意団体ですめるべき事業だ」と考え

ており、この度一般社団法人の立ち上げから、町内2箇所(箕和田地区・川角地区)の貸し農園事業を企画いたしました。

町では平成22年度、町民農園事業として25万円の予算を付けましたが、今後町予算を使わない、つまり税財源を使わない「もろやま方式の町民農園」の事業展開が確立するよう更に働きかけをいくつもりです。

### もろやまの

### ビオトープ 苦林



雑木の林が生まれ変わりました

平成16年から3年間に及んだ西大久保耕地の遊休農地再生も、今では地元の大久保耕地対策会が結束し、休耕地もほとんど見えなくなってきました。昨年からは田んぼを解放し、多くの皆さんに「のらぼう菜の摘み取り」を楽しんで頂いているようです。

そして、昨年の4月から仲間と始めた、苦林耕地に広がる木まで生い茂った遊休農地の再生事業は2年目の今年、作付け計画が早くも耕地の90%台となる見込みです。

抜いた雑木も数本本となり、その片付けが終わらなければ先の仕事もできませんが、県道から見える新しい越辺川の築堤が大きく耕地を包んでいるように気持ちのいい風景です。

苦林耕地で頭が痛いのは、地元の手農家がいないこと。耕地整理もできていない昔ながらの田が、米作りの労働時間を悪戯に増やしているからでしょう。

反面、いいところもあります。昔ながらの土側溝とよばれるコンクリートではない土の水路は生態系を守り水中生物を見ることができからです。メダカはもちろん、タニシ、ヤゴ、カワナ、ゲンゴロウと懐かしい姿を見ると、ホッと自然のスポット。

できるだけ自然に・・・残せるものは残したいもの。是非ビオトープ苦林に、残された自然を見に来て戴きたいものです。

### やぶさめを守る

保存と継承

全国で初めて、やぶさめを行う市・町が毛呂山町に集まり「やぶさめサミット」が開催されます。

詳細は

【日時】10月31日(日)

午前9:30

【場所】毛呂山町福祉会館

【参加自治体】

福島県古殿町

静岡県袋井市

他6団体

パネルディスプレイに、お互いのやぶさめ文化の情報交換を行います。

一般の方々も入場無料です。